ISSN 1347-5142

長淀のバス停（漢字は違うが、読みは同じ「ながとろ」）

かわはく No.79

CONTENTS

開催案内：春期企画展
「川にまつわる地名大調査～長瀞・吹上・川口は埼玉だけの地名？～」…… 2
開催報告：冬期企画展「キョクホクの大河」 …… 3
開催予告：特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」… 3
開催案内：スロープ展･蔵出しコーナー「世界かんがい施設遺産～関東を中心に～」4
開催予告：大人のための講座「地形と水とお酒Ⅰ」 …… 5
開催予告：体験教室「カビを育ててみよう」 …… 5
令和５年度　かわはくボランティア活動報告…… 6
学芸員コラム：「かわはくで楽しむ桜」…… 7
学芸員コラム：「丘陵地帯の漁労文化」…… 7
イベント情報コーナー　４・５・６・７月…… 8

埼玉県立川の博物館
SAITAMA MUSEUM OF RIVERS

開催案内

春期企画展
「川にまつわる地名大調査～長瀞・吹上・川口は埼玉県だけの地名？～」

開催期間：2024年３月16日（土）～５月６日（月・振休）

皆さんは「荒川」と聞くと、どこの、どんな川の姿を思い浮かべますか？

埼玉県民であれば埼玉の母なる川“荒川”の姿を思い浮かべる人が大半かと思います。しかし、全国には同じ「荒川」の名前を冠する河川が33本も流れています。同様に「長瀞」や「吹上」、「川口」と聞くと、私でしたら埼玉県内の各地域の様子が頭に浮かんできます。

本企画展は、荒川が33もあるのなら、上記３つの地名は全国各地にいったいどれくらいあるのだろう、同じ地名の場所はやっぱりどこか似ているのだろうか、という疑問をふと感じたことが出発点となっています。

本展示では、33の荒川を改めて紹介し、全国各地に点在する、荒川流域沿いの上記３つの地名をそれぞれ取り上げ、その共通点や違いを紹介します。併せて、“全国各地に点在する同じ地名”と対をなすともいえる、“埼玉県内にしかない地名”も取り上げます。さらに、地名が同じであれば同じ名前が冠される例として、全国各地の同名の学校や駅なども取り上げます。

展示をご覧いただき、地名の由来の不思議や奥深さを感じていただければ幸いです。開期中には、実際に現地をたずね歩くイベントも開催しますので、ご興味のある方はぜひ、ご参加ください。

■企画展関連イベント（荒川ゼミナールⅠ）

①元荒川を歩く～旧中山道と蛇行したかつての流路をたどる～
　日時：４月６日（土）09:30～16:00（予定）

②川口を歩く～鋳物工場跡地と街中の旧堤探検～
　日時：４月21日（日）09:30～16:00（予定）

※いずれも事前申し込みが必要です。詳細はだより裏面または、かわはくホームページをご確認ください。

（学芸グループ　羽田武朗）

地名が同じであれば、学校名も同じ
（八戸市立吹上小学校）写真提供：横山輝 氏

漢字は違うけれど、読み方は同じ「ながとろ」
（高山市久々野町長淀）

埼玉にしかない地名の例（八潮市坂（がけ））
写真提供：昼間良次 氏

開催案内

冬期企画展「キョクホクの大河」

開催期間：2024年１月13日（土）～２月25日（日）

本展示は、２名の若手研究者によって企画・制作された巡回展です。極寒の地シベリアを流れる「オビ川」をテーマに、ムクスンなど大型魚類の自然誌や、流域に暮らす人々の民俗を紹介しました。

川幅が広くゆっくりした流れのオビ川と、距離が短く急流の日本国内の河川の違いにも触れ、当館独自の展示として、荒川で使われていたヤマメドウやウナギ掻きなどの伝統漁具や、木材の流送を図解した「木材搬送図解」の一部を紹介しました。

２月12日には、本展示の企画・制作者のひとりである渡辺友美先生（東海大学）による展示解説を開催しました。当日は研究者の方や、かつてオビ川流域で働いた経験がある方など、ゆかりのある方々が来場され、充実したイベントとなりました。　（学芸グループ　藤田宏之）

木材搬送図解

展示解説のようす

開催予告

令和６年度特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

建造物や美術工芸品、古文書などの有形文化財のうち、歴史的あるいは学術的な価値が極めて高いものとして、文化財保護法に則って国が指定した重要文化財から「類ない国民の宝たるもの」、すなわち「国宝」が指定されます。

自然分野においても「動物、植物および地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの」として、文化財保護法で指定された天然記念物のうち、特に重要なものは特別天然記念物と呼ばれます。

埼玉県内では、自然の“国宝”ともいえる特別天然記念物が３件所在する他、ニホンカモシカなど地域を定めない特別天然記念物も見ることができます。天然記念物を知ることで、埼玉の地形や自然の特徴、さらには私たちの文化史までを見渡すことができます。

本展示では、県内の国・県指定天然記念物を紹介し、それぞれの市町村が取り組んでいる天然記念物の保護事業や、県立自然の博物館が長年実施しているカモシカの生息調査も取り上げます。

天然記念物の化石や岩石、動植物の標本の展示だけでなく、生きた天然記念物を間近で観察できる飼育展示も予定しています。また、展示期間中には、特別展関連イベントとしてムジナモ自生地の見学会や、天然記念物に親しむワークショップ、講演会、展示解説なども開催する予定です。本展示と併せてご参加ください。

今年の夏休みはかわはくで、埼玉の自然の“国宝”をより身近に感じてみませんか。

（学芸グループ　板垣ひより）

埼玉の天然記念物

開催案内

スロープ展・蔵出しコーナー「世界かんがい施設遺産～関東を中心に～」

開催期間：2024年２月６日（火）～６月16日（日）

「かんがい施設」とは何か知っていますか？

かんがい（灌漑）とは、農作物を育てるために、河川や地下水、湖などから人工的に水を引いて農地に給水することです。私たちが主食とする「米」を食べるために田んぼでイネを育てますが、その時にかんがい、つまり田んぼに水を入れるために水を引いてこなくてはなりません。かんがい施設には、川から水を取り入れる「頭首工」、農地へ水を送る「用水路」、水不足に備えるための「貯水池」などがあり、それらがネットワークとしてつながっています。荒川の水を利用するかんがい施設として、「六堰頭首工」や「大里用水」などを聞いたことがあるかもしれません。

日本において、かんがい施設は昔から、田んぼをつくるために必要不可欠でした。世界の農業を見渡してみても、それぞれの国の事情に合った様々なかんがい施設がつくられるなど、その重要性は世界共通であることがわかります。そういったかんがい施設への理解や保全のためにつくられた認証制度が「世界かんがい施設遺産」です。国際かんがい排水委員会（ICID）が2014年から認定・登録しており、登録されるためには、100年以上前につくられたものであることなど、いくつかの条件があります。2023年末までに、世界で19ヵ国、161施設が登録されました。

日本では51施設が登録されており（2023年末）、埼玉県では「備前渠用水路」と「見沼代用水」が登録されています。本展示では、この２施設に加え、関東からは、城下町高崎の暮らしと結びついた「長野堰」（群馬県）や、近代開拓事業の先駆け「那須疏水」（栃木県）、他の地域からは、日本最古のダム型式ため池「狭山池」（大阪府）、卓越した知恵と技術の「山田堰・堀川用水・水車群」（福岡県）を紹介しています。加えて、「渋沢栄一が関わったかんがい施設」のトピックもあります。

ここでは少しだけ紹介しましょう。

■ 見沼代用水

見沼代用水は、江戸時代の水田を支えるため、ほぼ現在の利根大堰の位置から見沼まで、約60㎞にも及ぶ水路を引くという、精密な測量技術を伴う大土木工事によってつくられました。途中、交差する川を越えるため、「伏越」や「掛渡井」の技術が用いられています。

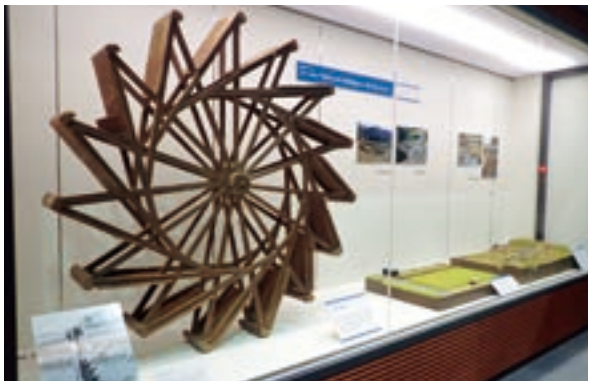
■ 備前渠用水路

備前渠用水路は、今から420年前に利根川から水を引くためにつくられた用水路です。利根川の洪水により、度重なる取水口の改修・移動や、村同士の利害対立などを乗り越え、現在も埼玉北部の農地を潤しています。

開削当時をしのばせる素掘り水路
（写真提供：備前渠用水土地改良区）

備前渠用水路の名前の由来は？備前渠用水路や見沼代用水と渋沢栄一との関係とは？答えはスロープ展へ！

常設展示１Ｆの蔵出しコーナーでは、水面より高い水路に水を送る水車（ミズグルマ）や、見沼代用水を舟運にも使うためにつくられた「閘門」の模型を展示しています。併せてご覧ください。



蔵出しコーナー

川の恵みと私たちの生活をつなぐかんがい施設。「世界かんがい施設遺産」を通じて、改めて川の恵み、水田を中心とした日本の農業、日本の優れた土木技術などへの理解を深めていただければと思います。　（学芸グループ　森圭子・矢嶋正幸）

開催予告

大人のための講座 「地形と水とお酒Ⅰ」

民俗学と菌類学担当の学芸員による、新規の大人のための講座を５月19日（日）に開催します(事前申し込みが必要です)。今回は、江戸から数えて９番目の中山道の宿場町“深谷宿”の面影を残す深谷駅周辺を散策しながら地形と水、そしてお酒の関係を紐解きます。

出発地のJR深谷駅は、赤いレンガで造られた美しい駅舎で有名です。深谷の町は、櫛引台地と利根川の沖積平野の境目に位置し、河川がもたらす良質な粘土と水運の利によって明治以降にはレンガ産業が栄えました。本講座では、日本煉瓦製造専用線跡のほか、旧中山道沿いで見られるレンガ製の煙突や倉庫、商店などを見てまわります。

また、江戸時代の深谷は宿場町として栄え、お酒の需要が高まりました。深谷には地下にしみこんだ水（伏流水）が湧出する場所が多数存在するなど、地形的にもお酒づくりに欠かせない水が豊富に得られることもあって、埼玉県内でも酒蔵が集中する地となりました。

講座の最後には、この伏流水と埼玉独自の酒造好適米「さけ武蔵」を中心とした原料米を使って日本酒を仕込んでいる酒蔵も見学する予定です。ご興味のある方はぜひご参加ください。

（学芸グループ　板垣ひより・矢嶋正幸）

七ツ梅酒造跡からの風景

開催予告

体験教室 「カビを育ててみよう」

昨年度は土や魚、変形菌、竹細工など多種多様なテーマで体験教室を開催しました。いずれも１日限りでしたが、４月13日（土）と20日（土）は２週連続で“カビ”を育てる体験教室を開催します（事前申し込みが必要です）。

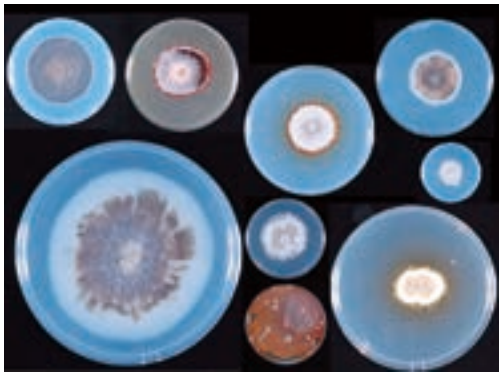
同じ“菌類”のきのこと比べ､カビにはネガティブなイメージがつきものです。家でカビを見つければ「汚い」「くさい」「(食中毒やアレルギーなどで）キケン」と感じるでしょう。しかし、カビは家の中だけでなく土の中や植物の上、私たちの体や空気中など、あらゆる場所で生活しています。

そんなカビもよく見てみれば、不思議な、あるいは可愛らしい形の胞子を作っていることがあります。この体験教室では、カビのエサとなる栄養成分が添加された寒天に、一つまみの砂粒や小さく刻んだ葉っぱなど好きなものをのせ、暗く涼しい場所に１週間置いてカビを育ててみます。

空気中のカビを捕まえたければ、寒天が入った容器のふたを開けてしばらく待ってみましょう。空気中に漂う胞子が入れば、数日後には目に見えるほど成長した姿（コロニー）で新たに胞子を作っているところを見ることができるはずです。

１週間後の体験教室では、育ったカビを顕微鏡で観察します。どんなカビがみられるかは当日までのお楽しみです。

（学芸グループ　板垣ひより）



色とりどりのカビのコロニー

令和５年度 かわはくボランティア活動報告

20年あまりの歴史となる「かわはくボランティア」は、荒川大模型173の解説（通称：ガリバーウォーク）を中心に活動しています。ガリバーウォークに加え、荒川の水質調査や館外研修会、川の日（７月７日）や埼玉県民の日（11月14日）に開催される、かわはくイベントでのブース出展なども行っています。活動報告は、かわはくホームページのボランティアブログに随時掲載しています。ご興味のある方はぜひご覧ください。

さて、今年のかわはく秋祭り（県民の日）では、「木の実あそび」として、マテバシイやクヌギのどんぐりを使った、やじろべえとコマづくりを実施しました。川の日の「七夕かざりづくり」とともに15年以上継続している老舗のワークショップです。毎年、使用する工具や作り方に工夫を重ね、完成度を上げてきました。昨年度からは東京農業大学第三高等学校ボランティア部の高校生も加わり、季節のイベントをより一層、盛り上げていただいています。

かわはくでは年間を通じて様々なワークショップを催しており、中でも「かわはく体験教室」は学芸員の特性を生かした内容となっています。昨年度からは、ボランティアが主催する体験教室もスタートしました。第１回目（2023年１月15日）「木の実アート」では、マテバシイ、スダジイを材料にしたペンギンのミニジオラマづくりを、第２回目（2024年12月３日）には、色々な木の実を使った「リースづくり」を行いました。

当日の講師だけでなく、体験教室の企画から材料集めまでをボランティアが担いました。閑散期の実施にもかかわらず、いずれの体験教室も満員御礼となり、木の実を使ったものづくりに対する興味・関心の高さを実感しました。

今年１月14日には、木の実を使ったボランティア活動の締めとして、リバーホールに飾るアート作品の作成と展示も行いました。リースやどんぐりペンギンの他、トチの実と松ぼっくりを使ったネズミや大水車など、ボランティアメンバーがそれぞれの思いを込めて製作しました。完成した作品は、来場者からも好評をいただいています。

かわはくボランティアと東農大三高ボランティア部の高校生

体験教室「クリスマスリースづくり」のようす

新作の木の実アート作品

かわはくボランティアでは、荒川の自然と人の暮らしに関心のある方、博物館来館者との交流に興味のある方を募集しています。詳しくはお電話またはホームページよりお問い合わせください。お待ちしております。

（学芸グループ　藤田宏之）

学芸員コラム

かわはくで楽しむ桜

桜の時期がやってきます。園内には約30品種の桜の樹が植えられ、３月上旬から４月下旬まで代わる代わるに咲く花を楽しむことができます。

３月上旬に‘八重紅寒緋桜’が釣鐘状の花を咲かせ、かわはくの桜の季節が始まります。同時期に花をつけるのは、この亜熱帯地域に分布するカンヒザクラの系統が多く、ヒマラヤヒザクラや‘陽光’などの濃い紅色の花が目立ちます。

３月下旬、黄色い葉に白い花をつける‘黄金大島’や、屈曲した雲竜型の枝に小ぶりの花をつける‘湖上の舞’など多様な桜が園内を彩ります。

４月上旬には、八重桜の品種が開花し始めます。‘雨情枝垂’‘須磨浦普賢象’‘八重紅大島’の他、花が黄色の‘鬱金’に、緑色の‘御衣黄’も楽しめます。近づいて観察すると面白いのが‘松月’や‘一葉’です。花の中央にひしゃげた小さな葉のようなものが突き出ています。これはめしべです。めしべやおしべ、花弁も、もとは葉であったものが変形したもので、これはその名残です。

と、ここまでが例年の開花状況ですが、今季は例年より約３週間も早い２月21日に‘八重紅寒緋桜’の開花を確認しました。例年早まる花期ですが、今年はまた一段と早い、春の訪れを迎えています。

（学芸グループ　三瓶ゆりか）

左上：八重寒緋桜　右上：陽光　左下：鬱金　右下：松月

学芸員コラム

丘陵地帯の漁労文化

『近世鳩山農事日記』と名付けられた日記は、江戸時代末期の比企郡須江村（現在の鳩山町）の様子を描いたものです。著者は、岡田半三郎という青年で、29歳で婿養子として岡田家に入りました。几帳面な性格だったらしく、日々の農作業の内容が事細かに記されています。

須江村は、江戸時代の『新編武蔵国風土記稿』に、「山丘平地マシハリテ町水不便ナレハ天水ヲ湛ヘテ耕植ヌ」とあるように、ため池を農事の中心に据えた比企丘陵に典型的な農村でした。日記の中心は、稲作・麦作といった農事にありますが、漁労についても記述があります。ここではその一部を紹介します。

安政７年（1860）閏３月20日に、半三郎は夜に川に出かけてナマズ10匹を得ました。翌日も、夜に出かけて、朝になってウナギ２匹とナマズ１匹を得ました。おそらく筌（ウケ）を使う漁だったでしょう。また、４月７日には、昼休みに用水路をカイボリして魚を取っています。この時期は、現在の暦に直すと、５月頃にあたります。田植えを準備する合間に、栄養補給や娯楽を目的に漁労をしていたことが窺えます。８月21日は、恵みの雨が降ったことを祝って新米を炊き、おかずに半三郎が取った魚を汁にしました。野菜が主菜だった江戸時代、魚はごちそうでした。

獲った魚は、自宅で消費するだけでなく、近隣の親戚へも贈り物として届けました。半三郎のもとには、実家から魚やムキタニシが届けられることもありました。

大きな河川から離れた丘陵地帯にある須江村ですが、土地に根差した漁労文化が存在していました。今もそうした習俗が残っているかどうか、地域を歩いて確かめたいものです。

（学芸グループ　矢嶋正幸）

かわはくで学ぼう!!

イベント情報コーナー

4月

3/16/土～5/6/月振休

春期企画展「川にまつわる地名大調査～長瀞・吹上・川口は埼玉県だけの地名？～」

6/土

企画展関連イベント　荒川ゼミナールⅠ「元荒川を歩く」
時間：09:30～16:00（予定）
費用：300円（保険料等）　定員：20名　☎
内容：JR吹上駅周辺の元荒川流域を歩きます。

かわはくで緑に親しむ「丸太を切ってみよう」
時間：①11:00～12:30　②13:30～15:00
費用：500円　定員：各回20名　☎
内容：林業の専門家と一緒に丸太を切る体験をします。

7/日　**かわはくであそぼう・まなぼう「かわはく桜マップづくり」**
時間：13:30～15:30
内容：ウォークラリーで園内に咲く桜のマップを作ります。

13・20/土　**かわはく体験教室「カビを育ててみよう」**
時間：13:30～14:30　費用：300円　定員：15名　☎
内容：寒天培地に好きなものをおいて１週間後にどんなカビが生えるのか観察します。

21/日　**企画展関連イベント　荒川ゼミナールⅠ「川口を歩く」**
時間：09:30～16:00（予定）　費用：300円（保険料等）
定員：20名　☎
内容：鋳物工場跡と街中に残る旧堤を巡ります。

かわはく研究室「オタマジャクシを観察しよう」
時間：13:30～15:30
内容：早春に産卵するカエル２種のオタマジャクシの違いを観察します。

27/土　**企画展関連イベント　荒川ゼミナールⅡ「荒川の中位段丘と芝桜の丘を歩く」**
時間：10:00～16:00（予定）
費用：300円（保険料等）
※芝桜の丘にも入園する場合は＋300円
定員：20名　☎
内容：秩父市街を望む琴平丘陵の山道を歩きます。

5月

5/25/土～6/16/日

東京藝術大学学生による「河川・水系」作品展

3/金祝～5/日

かわはくGWイベント
時間：10:00～16:00
内容：日替わりでイベントを開催します。

5/日　**かわはくであそぼう・まなぼう【地質の日記念】「ストーンペインティング」**
時間：13:30～15:30
内容：地質の日にちなみ、荒川の河原の石に絵を描きます。

18/土　**かわはく体験教室「顕微鏡でミジンコを探そう」**
時間：13:30～15:00　費用：100円　定員：12名　☎
内容：田んぼや池の水からミジンコを探し、顕微鏡で観察します。

19/日　**大人のための講座「地形と水とお酒Ⅰ」**
時間：10:00～15:00（予定）
費用：300円（保険料等）　定員：20名　☎
内容：深谷駅周辺の地形や川を散策し、地域に根づく歴史や文化を学びます。

かわはく研究室「草花さんぽ」
時間：①10:00～　②11:00～　③13:00～　④14:00～
内容：園内で草花を観察しながら歩きます。

6月

2/日

かわはくであそぼう・まなぼう【環境の日記念】「水質調べ」
時間：①10:30～12:00　②13:30～15:00
内容：環境の日にちなみ、パックテストで水質調査の体験をします。※検査キットがなくなり次第終了

9/日　**かわはくで緑に親しむ「“団十郎”を鉢植えで楽しもう」**
時間：①10:30～　②13:30～
費用：1,500円
定員：各回20名 ☎
内容：大輪の花を咲かす朝顔「団十郎」の植え方・育て方を学びます。

15/土　**かわはく体験教室「光る泥だんごづくり」**
時間：13:30～15:30
費用：200円
定員：12名　☎
内容：粘土を多く含む赤土を使って泥だんごを作ります。

16/日　**かわはく研究室「田んぼの小さな生き物を観察しよう」**
時間：13:30～15:30
内容：田んぼに生息する水生昆虫やミジンコなどを顕微鏡で観察します。

7月

7/6/土～9/1/日

特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

7/日　**特別展関連イベント「展示解説」**
時間：①11:00～　②14:30～
内容：学芸員が特別展の展示を解説します。

かわはくであそぼう・まなぼう【川の日記念】「七夕飾り」
時間：①10:00～11:30　②13:00～15:00
内容:川の日を記念して、荒川大模型に七夕飾りをかざります。

13/土　**かわはく体験教室「かわはくで変形菌をさがせ」**
時間：13:30～15:30
費用：200円
定員：15名　☎
内容：かわはく周辺で変形菌を探して、顕微鏡で観察します。

21/日　**特別展関連イベント「さいたま水族館と宝蔵寺沼ムジナモ自生地見学会」**
時間：10:00～12:00
費用：さいたま水族館入館料＋保険料（団体）
定員：25名　☎
内容：ムジナモを間近に観察し、その生態について学びます。

かわはく研究室「土と砂は何がちがう?」
時間：13:30～15:30
内容：土と砂を見比べて「土とは何か」を探ります。

28/日　**特別展関連イベント「天然記念物の化石たち」**
時間：10:00～11:00
定員：50名　☎
内容：埼玉県産の化石について分かりやすく解説します。

ホームページでも紹介しています！　https://www.river-museum.jp

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の２日前までです。③定員になり次第締め切ります。

■編集・発行
埼玉県立川の博物館
PRINTED WITH SOY INK

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL／048-581-8739（学芸グループ）　FAX／048-581-7332
ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。
https：//www.river-museum.jpまたは「かわはく」で検索
かわはくHPトップページQRコードはこちら⇒

彩の国 埼玉県

2024年３月31日発行